

第7回 HIS (Human-oriented Information System) 研究会 開催報告

研究会主査 川野喜一

■開催日時 2017年9月5日(火) 14:00～16:30

■開催場所 専修大学 神田校舎 7号館 763教室

■出席者 7名

■講演概要

- 講演者：畑山 満則 先生（京都大学 防災研究所 教授）
- 講演タイトル：「情報システムの人間・組織的考察 ～災害情報システムを事例に～」
- 講演概要

人やものといった資源の枯渇する巨大災害対応において、現場の作業を効率化させる情報システムへの期待は高いが、このような巨大災害が発生した場合に現場で情報システムが期待通りに利用されることは稀である。過去の災害時に構築した情報システムを事例として、ユーザつまり運用者を中心に据えた「使える」情報システムの開発についての考察についてご講演いただいた。

- ・ 阪神淡路、中越、東日本の事例：支援する側とされる側とのコミュニケーションが課題。
- ・ 大規模災害のサイクル（10年）と情報システムを支える ICT の進展とのギャップへの対応：クラウドの活用やアジャイル開発の活用。
- ・ 危機管理の考え方：リスクマネジメントとクライシスマネジメントの違い、「安全」は客観的で提供できるものだが、「安心」は主観的で形成するもの。
- ・ 使われる情報システムは人間中心で設計された情報システム：システムを利用する人（運用体制）とシステムを通じてサービスを受ける人（顧客満足）を中心に設計する。また、情報システム設計の知識だけでなく、開発するシステムの対象とする領域の知識が必要（参考：フィールド・イノベーション）

■討議概要（質疑応答）

- ・ 現場で使われる情報システムの課題（事例での具体的課題など）。
- ・ 評価（PDCAを回すこと）の重要性
- ・ ステークホルダー（被災者、行政等）の視点の大切さ。

以上